



# 海田中学校だより

学校教育目標：「本気で考え 進んで実践できる生徒の育成」

平成29年6月20日 第3号  
海田町立海田中学校  
発行責任者 校長 大田 稔

新しい年度を迎えて二ヵ月半、生徒たちはそれぞれの立場で前向きに努力する姿が日常的に見られるようになりました。

特に部活動においては、地域の方や学校を訪れられる方から「年度が変わり、活気が出てきましたね。」とよく声をかけてもらっています。その練習成果が試される安芸郡中体連春季大会が5月後半から6月初旬にかけて行われ、結果は賞状を手にした部と手に出来なかった部の両方が当然ありましたが、どの部も次への確かな手ごたえを感じることができる大会となりました。

昔からよく、勝った試合より負けた試合の方が得るものが多いと言われますが、大会後の練習風景を見ていると、惜しくも涙をのんだ部は顧問と部員がしっかりと課題を確認しながらステップ バイ ステップでより真剣に練習に取り組んでくれています。今から、それぞれの部の夏季大会での活躍・飛躍を祈らないわけにはいきません。

多くの彼ら、彼女らは大会やコンクールでより良い成績を残すことを目的に、他の部員と意見を交わし、ともに汗をかき、時には涙を流しながらレベル向上のために日を重ねています。卒業した数年後、ふと中学校時代を振り返ったとき、結果もさることながら仲間と過ごした時間そのものが、かけがえのないものだったときっと気付いてくれることでしょう。

暑い中、汗を流しながら頑張っている生徒一人一人の背中に「今、仲間とともに流している汗一粒、一粒は試合の結果より何倍も尊いものなんだよ。」と話しかけたい思いで見守る毎日です。

## 【第49回安芸郡・江田島市中学校春季総合体育大会】

5月20日(土)、21日(日)に行われた第49回安芸郡・江田島市中学校春季総合体育大会(水泳は6月10日(土))において、各部活動が日頃の練習の成果を発揮し、活躍しました。成績の一部を紹介します。

### 団体

剣道部 男子Aチーム(1位) Bチーム(2位) 女子(1位)  
ソフトテニス部女子(2位)  
ソフトテニス部男子(3位)  
バスケットボール部女子(2位) 男子(2位)  
バレーボール部(3位)



### 個人

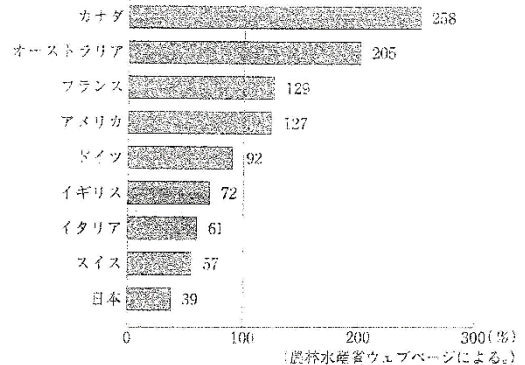
剣道部	男子	1位	猪原 太一	2位	寺上 尚毅	3位	山田 楓稀・吉本 一輝
	女子	3位	山下 美羽				
柔道部	男子個人	55kg級	3位	小請 大稀			
陸上部	3年女子	100m	1位	森岡 輝	共通女子	200m	2位 森岡 輝
	共通男子	800m	3位	山本 竜大	オープン男子	1500m	3位 池田 峻雅
	オープン女子	1500m	3位	石田 優里			
水泳部	女子	50m 自由形	1位	竹中 さち	女子	100m 自由形	1位 竹中 さち
	男子	200m 自由形	1位	中山 東馬	男子	400m 自由形	1位 中山 東馬
	男子	100m 自由形	2位	田中 誠也	男子	50m 自由形	3位 田中 誠也
	男子	100m 自由形	3位	木下 隼都			
	男子	100m 平泳ぎ	2位	新垣 克騎	男子	200m 平泳ぎ	2位 新垣 克騎

## 【呉賀茂地区大会】(速報)

バレーボール部・バスケットボール部(男子・女子)・ソフトテニス部(女子)・サッカー部・柔道部・剣道部・ソフトボール部が、6月17日(土)・18日(日)に行われた呉賀茂地区大会に出場しました。その結果、剣道部は男子団体2位、女子団体3位入賞、男子個人で、猪原君が1位、寺上君が2位に、それぞれ入賞しました。また、バスケットボール男子が3位入賞を果たしました。来月行われる広島県選手権大会には、剣道部(男子団体・女子団体と、個人で猪原君・寺上君・吉本君・山下さん)及びソフトテニス部女子(団体と、個人で迫田 彩夏さん・宇根 凧咲さん)が出場します。

## 【「学びの変革」と授業】

① あるクラスの社会科の授業で、「食料自給率からみた日本と世界」というテーマで班に分かれて学習しました。右のグラフは、この授業のはじめに先生が提示した、2011年(平成23年)の日本と諸外国の食料自給率を示しています。また、次のカードⅠ～Ⅲは日本の食料自給率が低い原因について、A～C班がそれぞれ予想した内容を示しています。これらを見て、あとのⅠ～Ⅳに答えなさい。



- 1 このクラスでは、グラフ中の食料自給率が100%を超える4か国の共通点を考えました。次のア～エのうち、この4か国の共通点として適切なものはどれですか。その記号を書きなさい。
- ア 北半球に位置している。
  - イ 国土の大部分が温帯に属している。
  - ウ 日本よりも総人口が少ない。
  - エ 日本よりも国土面積が広い。

上記は、昨年度の3年生が受検した、広島県公立高等学校選抜Ⅱ・社会科の、最初の問題(一部省略)です。この問題は、暗記している知識を答えれば良いのではなく、それをもとに考えて解かないと、できません。現在、高校入試は、社会科に限らず、このような問題が中心になっています。

これは、広島県が、「学びの変革」として、知識を活用した主体的・能動的な学びを進めているからです。現在は、AI(人工知能)の急速な進化や、政治・経済の流動化など、変化が大きく先を見通しにくくなっています。その中で、今の生徒たちが将来社会に出て生きていくためには、自分で課題を見つけ、知識をもとに考えて答えを出し、それを実行する力が必要とされています。

そのため、授業でも、できるだけ生徒が考える時間を作り、また、考えを深めるためにグループで協議したり、資料を調べたりする活動を、取り入れています。それが、高校入試を解く力、学校教育目標「本気で考え、進んで実践」できる力、社会に出て生きていける力につながると、考えています。

ただし、「学びの変革」は、これまでの学習を否定するものではありません。上記の社会科の問題を解くには、「北半球」「温帯」などの用語の意味は覚えていないといけないし、グラフの見方や漢字の読みも、わかっていないとできません。一定の基本的な知識は、覚えるしかありません。

また、何より、すべての学習の基礎となるのが学習規律(勉強とくに授業を受けるときのルール)です。海田中学校では、学習規律をまず守らせて勉強する雰囲気・環境を作り、その上で、しっかり覚えさせ、しっかり考えさせ、しっかり協議させて、生徒に力をつけていきたいと考えています。

